第３次支え合いのまちづくり計画

～　ともに支え合い　ともに明るい未来を育むまち　国分寺台　～







令和８年度（２０２６年度）～令和１２年度（２０３０年度）

支え合いのまちづくり計画推進委員会

はじめに

市内12地区において作成される「地区行動計画」は、3期目を迎えました。

2018年に第1次計画策定の際には、『福祉』とは『しあわせ』という意味があり、それぞれの人がよりよく生きたいと願い努力する中で、その願いや努力に対してどのような支援を行うかという課題を、みんなで解決していこうとすることから『福祉のまちづくり』を始めました。

2023年の第2次計画では、その間に起きた大型台風被害や、新型ウィルス感染症の拡大により、当たり前だと思っていた日常生活に大きな変化が起きました。そのような状況下で『思いやり』や『やさしさ』という抽象的な言葉をどのような行動で表すことができるかという体験の機会を得ることができました。この体験は、人と人のつながりの在り方を抽象的な言葉で表現するのではなく、具体的な行動計画を作成することの重要性を示唆するものでした。

そして今回の第3次計画の策定にあたって、市民間での助け合いは、誰もが困ったときに「助けて！」と言える信頼関係と「大丈夫？」と気軽に訊ねられる垣根の低さがあって成立し、地域支援はそこに住み続けたことによる人間関係の積み重ねから生まれることを再確認しました。助けたり助けられたりする経験の心地よさをより多くの人が体験でき、一方通行ではない相互依存関係を異世代間でも構築できるように取り組むことが、今期計画のポイントです。

地域共生社会とは、年齢や障がいの有無などに関係なく、一人ひとりが社会とつながり、生きがいや役割、出番を持って助け合っていく社会のありかたです。よりよい社会は、一人ひとりの生きる努力の中で互いによりよく生きられるように支え合うことによって築かれるものです。人として自立することは大切ですが、人に支えられずにひとりで生きていくことはできません。困ったときに「助けて！」と言える関係が洗練された相互依存と言えるのではないでしょうか。

今回の計画策定には、地域住民の代表として町会長会の代表、小学校区で活動する小域福祉ネットワーク代表、市民の身近な相談相手として日々活動している民生委員代表、子育て支援に取り組む子育て家庭支援員代表、当事者団体として老人クラブや障がい者団体の方々、総合相談機関として地域包括支援センター、専門家として社会福祉法人の代表に参加していただき、国分寺台地区の未来の姿を見据え、過去の活動を振り返り、議論を重ね、第3次支え合いのまちづくり計画が出来上がりました。皆さまに心よりお礼を申し上げます。

令和８年（２０２６年）７月

国分寺台地区社会福祉協議会

会 長　　船 山　　慶 子

目　　次

第１章　　計画の策定にあたって

1　見直し策定の背景……1
2　地区の特性……1
3　計画事業の推進圏域……2
4　計画の期間……2

第２章　　現状と課題

1　前計画の実績と課題……3

第３章　　計画の体系

1　基本理念……5
2　基本目標……5
3　計画の事業体系……6
4　事業計画……7

第４章　　推進体制と計画事業の進行管理

1　推進体制……１５
2　計画事業の進行管理……１５

第５章　　資料編

1　策定委員会委員名簿……１６
2　相談支援体制（モデル図）……１７
3　活動写真……１８

第1章 計画の策定にあたって

1 見直し策定の背景

●近年、少子高齢化や単身世帯の増加、価値観や生活様式の多様化が進む中で、人と人とのつながりの希薄化や地域への関心の低下が見られるとともに、新たに社会的な孤独・孤立が課題になっています。また、物価高騰や新型コロナウイルス感染症の影響により、地域における生活の困難を抱える人が増加し、子どもから高齢者まで幅広い世代で生きづらさを感じる場面が見られるようになっています。

●こうした社会情勢を背景に、国では「子ども基本法」や「孤独・孤立対策推進法」などを施行し、すべての人が支え合い、安心して暮らせる「地域共生社会」の実現に向けた取り組みを進めています。

●市原市においては、こうした状況を受け、令和8年度を初年度とする「市原市地域共生社会推進プラン（第5期市原市地域福祉計画）」が策定されました。市原市社会福祉協議会でも同計画と整合を図りながら「第7次市原市地域福祉活動計画」を策定し、地域共生社会の実現に向けた地域づくりをさらに推進していくこととしています。

●国分寺台地区においても、地域の課題や変化を的確に捉え、地域のつながりを形成し、誰もが支え合いながら安心して暮らせる地域を実現するためには、計画的かつ継続的な取り組みが必要です。そのため、市原市社会福祉協議会が策定した「第7次市原市地域福祉活動計画」と連携・連動しながら、「第３次支え合いのまちづくり計画（国分寺台地区行動計画）」を策定します。

2 地区の特性

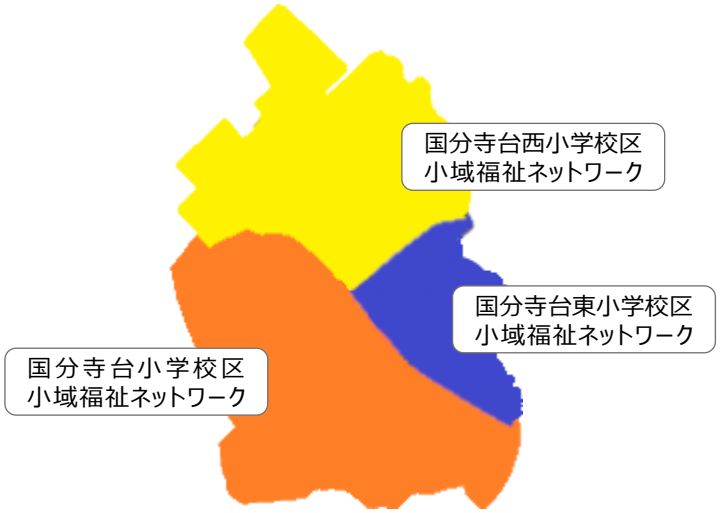
●国分寺台地区は、当時全国的にも最大規模の380ヘクタールに及ぶ組合施行土地区画整理事業により、昭和46年以降に形成された地域であり、臨海部企業従事者の住まいとして、また、東京のベッドタウンとして発展してきました。特に昭和50年代半ばには、大手企業による建売住宅の建築が活性化して一気に人口が増加し、地区全体の活性化に繋がってきました。

●ところが、短期間で戸建て住宅への同世代の集積は、急速な高齢化率の上昇を招くこととなり、今では市全体の高齢化率31.1%（令和8年1月1日現在）には至らずとも、30.7%（令和8年1月1日現在）の高い数値を示しており、今後も高齢化率の更なる上昇は避けることが出来ないと推察出来ます。この傾向は、自治会・町会への加入率にも大きく影響を及ぼしています。

●国分寺台地区は、地区社会福祉協議会をはじめ、町会や地区内3圏域に設置された小域福祉ネットワーク、福祉関連団体等が、地域課題に向き合い先駆的な地域福祉活動を実践してきたことから、今後も様々な団体や専門機関等が互いに協力し合い、本計画が目指す「地域共生社会」づくりにおいても、その実現が着実に遂行できる可能性を十分に有している地域として期待されています。

3　計画事業の推進圏域

●計画事業推進の対象となる圏域は、国分寺台小学校区小域福祉ネットワーク、国分寺台西小学校区小域福祉ネットワーク、 国分寺台東小学校区小域福祉ネットワークの各活動区域を統合した、国分寺台地区圏域とします。



4　計画の期間

●この計画は、2026（令和8）年度から2035（令和17）年度までの10年間を計画の期間としますが、計画の実効性を高めるため、5年ごとに計画書（前期計画、後期計画）を策定します。

	2026年度	2027年度	2028年度	2029年度	2030年度	2031年度	2032年度	2033年度	2034年度	2035年度
市原市	市原市地域共生社会推進プラン（第５期市原市地域福祉計画）（2026年度 ～ 2035年度）									
市原市社協	第7次市原市地域福祉活動計画（前期）（2026年度 ～ 2030年度）					第7次市原市地域福祉活動計画（後期）（2031年度 ～ 2035年度）				
地区社協	第3次支え合いのまちづくり計画（前期）（2026年度 ～ 2030年度）					第3次支え合いのまちづくり計画（後期）（2031年度 ～ 2035年度）				

第2章 現状と課題

1 前計画の実績と課題

●第3次支え合いのまちづくり計画の策定にあたり、第2次支え合いのまちづくり計画における取り組みの実績と、見えてきた課題について整理しました。

基本目標１ 地域の誰もが互いに支え合うコミュニティづくり

実 績

●世代や分野を問わず誰もが集まれる居場所づくりとして「地域食堂」や「バリアフリーサロン」を実施するとともに、地域の子どもがありのままでいられる居場所づくりを開始した。また、「困ったときはお互いさまの地域づくり」として「フードパントリー」や「制服リユース」活動を実施した。これらの活動を通して、地域住民で支え合う意識が育まれた。

課 題 方向性

●高齢者や子どもの交流が広がる一方で幅広い世代の参画が課題となっており、支え手と受け手の垣根を越え、参加する誰もが役割や生きがいを発揮できる事業を推進し、地域全体の福祉意識向上を図る必要がある。

基本目標２ 地域の繋がりを豊かにするための仕組みづくり

実 績

●地区行動計画推進委員会や第２層協議体などの会議において、地域内の社会福祉法人からの協力を得ることができ、地域住民、専門機関、法人との協働体制が強化された。多様な住民の繋がりを広げる地域づくりが着実に進展した。

課 題 方向性

●潜在化している地域課題を発見し適切な支援につなげていくため、関係機関との連携を深め、地域全体での地域福祉の推進力を強化していく必要がある。専門職との連携においては、高齢者分野に加え、児童・障がい分野へのアプローチが必要である。

基本目標３　地域で安心して幸せに暮らすための基盤づくり

実 績

●能登半島沖地震の発生や房総沖地震の多発により住民の防災意識は高まっており、災害ボランティアセンターや福祉避難所との協力体制構築に向けて、運営訓練に参加し対応力を高めることができた。また、子どもを対象とした防犯事業を実施し、安心・安全な地域づくりに努めた。

課 題 方向性

●災害支援や地域福祉を担う人材の確保に加えて、これらの人材を定着させていくためのアプローチが重要となる。そのため、継続的な研修や訓練、体験型活動を実施し、地域連携体制の構築を図っていくことが必要である。



第3章 計画の体系

1 基本理念

●住み慣れたまちで、元気に安心して暮らしていくことは皆の願いです。今の世の中では、一人だけの力でこの願いを叶えていくことは、到底出来得ないことです。人は昔から強い絆で結ばれ、支え合い・助け合いながら生き、そしてその思いは連綿と受け継がれてきました。これから未来に向かっても同じことが言えるでしょうか。

●この行動計画は、その思いを未来まで育み、誰もがこの地域で安心して暮らし続けることが出来るよう、次の基本理念を掲げます。

ともに支え合い　ともに明るい未来を育むまち　国分寺台

2 基本目標

共 感

基本目標１　**「地域の誰もが互いに支え合うコミュニティづくり」**

全ての人が、思いやりの心を持って互いに手を差し伸べ合うことで、身近な地域での助け合いや社会とつながる喜びを実感できる地域社会の形成に取り組みます。

共 創

基本目標２　**「地域の繋がりを豊かにするための仕組みづくり」**

全ての人が、悩みや困りごとを抱え込むことなく、身近で気軽に相談することができ、その人のニーズに合った支援につながる仕組みの整備に取り組みます。

共 生
共 働

基本目標３　**「地域で安心して幸せに暮らすための基盤づくり」**

全ての人が、地域で共に生きることの理解を深め、地域を創る存在として役割を持って活躍できるよう、地域づくり活動への参加促進など基盤の整備に取り組みます。

3 計画の事業体系（施策の方向性）

共 感

基本目標１　「地域の誰もが互いに支え合うコミュニティづくり」

1　地域･福祉を知る機会の充実（福祉意識の醸成）

2　人とひと、人と地域のつながりを育む場の推進（福祉意識の醸成）

3　小地域福祉活動の推進

共 創

基本目標２　「地域の繋がりを豊かにするための仕組みづくり」

1　寄り添い支えていく体制の強化（地域で孤立させない取組の強化）

2　生活を支えるための体制の強化（地域で孤立させない取組の強化）

3　地域の実情に応じた地域福祉活動の推進（地域福祉力の向上）

4　多様な主体との連携体制の強化（地域福祉力の向上）

共 生
共 働

基本目標３　「地域で安心して幸せに暮らすための基盤づくり」

1　地域で活躍する人材の育成

2　災害対応力の向上

3　安心･安全な地域づくりの推進

4 事業計画

基本目標１　**「地域の誰もが互いに支え合うコミュニティづくり」**

施策の方向性（第7次市原市地域福祉活動計画をベースとした推進方策）

●全ての人が、思いやりの心を持って互いに手を差し伸べ合うことで、身近な地域での助け合いや社会とつながる喜びを実感できる地域社会の形成に取り組みます。

事業（活動）内容

1　地域・福祉を知る機会の充実（誰ひとり取り残さない福祉意識の醸成）

<table>
<tr><th>事業名</th><th>事業内容　／　到達目標</th></tr>
<tr><td>広報事業</td><td>住民が地域活動を身近に感じ、知り、また、担い手の確保に繋げるため、広報紙を活用して情報発信を行う。幅広い世代に情報を届けるため、SNSなど様々な媒体を用いた情報発信を検討・実施する。関係機関や専門職と連携した情報発信にも努め、支援を必要とする方へ情報が行き届くよう地域活動の「見える化・見せる化」を推進する。
＜ 目指す姿 ＞
広報紙「国分寺台地区社協だより」の適宜発行　SNSアカウントを開設し適宜情報発信　関係機関向けチラシの活用
<table><tr><th>令和８～９年度目標</th><th>令和１０～１１年度目標</th><th>令和１２年度目標</th></tr><tr><td>SNSアカウント開設・運用</td><td colspan="2">運　用</td></tr></table></td></tr>
<tr><td>歳末たすけあい運動
協力事業</td><td>歳末の時期に地域で実施する福祉活動の財源確保のため、住民に対して運動に関する趣旨の理解を図りながら、募金協力の呼びかけを行う。また、募金への協力が気軽な福祉活動に繋がるといったPRを通じ、住民等への福祉意識の醸成に努める。
＜目指す姿＞
寄付金の呼びかけの継続　歳末助け合い運動の趣旨の理解促進
<table><tr><th>令和８～９年度目標</th><th>令和１０～１１年度目標</th><th>令和１２年度目標</th></tr><tr><td colspan="3">継　続</td></tr></table></td></tr>
</table>

事業名	事業内容　／　到達目標
お互いさまの地域づくり事業	地域住民や企業の力を借りて食品や制服の寄付を募り、フードパントリーや制服リユース活動を実施することにより、生活困窮世帯への地域支援体制を構築し、「困ったときはお互いさまの地域づくり」を推進する。また、公民館との共催で余剰食品を募るフードドライブを検討・実施する。 ＜ 目指す姿 ＞ フードパントリー・制服リユース活動の通年実施　フードドライブの検討・実施 令和８～９年度目標：制服リユース活動、フードパントリー　通年実施／フードドライブ　開催検討 令和１０～１１年度目標：フードドライブ　実施 令和１２年度目標

２　人とひと、人と地域のつながりを育む場の推進（誰ひとり取り残さない福祉意識の醸成）

事業名	事業内容　／　到達目標
共生型サロン事業	社会的孤独・孤立を防ぐため、子どもたちに加えて独居高齢者も参加する地域食堂や、障がいを持つ方の仲間づくりの場を提供するバリアフリー交流会、地域住民の誰もが気軽に参加できる茶話会などを通して、参加者が支え手と受け手の垣根を超えて活躍できるサロン活動を推進する。 ＜ 目指す姿 ＞ 世代・分野を問わず全ての地域住民を対象に、住民に身近な場所でのサロン会場数の拡充 令和８～９年度目標／令和１０～１１年度目標／令和１２年度目標：発展・拡充
地域福祉支援事業（交流型）	歳末たすけあい運動の一環として、地域住民が気軽に参加できるコンサートを開催し、障がい者や子育て世帯、独居高齢者等が交流し助け合いの意識を深める。活動を通じて住民の生活課題やニーズを把握し、その後の継続的な地域福祉活動の発展・強化に繋げる。 ＜目指す姿＞ 歳末時期におけるコンサートの開催　事業を地区内全ての小学校区で展開 令和８～９年度目標：全地区での展開 令和１０～１１年度目標／令和１２年度目標：発展・移行

<table>
<tr><th>事業名</th><th>事業内容　／　到達目標</th></tr>
<tr><td>子どもの居場所づくり活動の推進事業</td><td>子どもの成長を支えるため学習支援等を実施し、様々な人との関わりを通じて、子どもたちがありのままの自分でいられる多様な居場所づくりを推進する。試行的に実施してきた居場所づくりの更なる発展・拡充に努める。
＜ 目指す姿 ＞
地区内全ての小学校区に開催会場の設置
<table><tr><th>令和８～９年度目標</th><th>令和１０～１１年度目標</th><th>令和１２年度目標</th></tr><tr><td colspan="2">全地区での実施</td><td>発展・拡充</td></tr></table></td></tr>
</table>

３　小地域福祉活動の推進

<table>
<tr><th>事業名</th><th>事業内容　／　到達目標</th></tr>
<tr><td>小域福祉ネットワーク連携事業（運営支援）</td><td>３圏域の小域福祉ネットワークに対し、それぞれの地域特性や課題を把握し、安定的かつ持続的な地域福祉活動の活性化に向けた支援（財政支援・連絡会議・広報等）に努める。各小域福祉ネットワークと取組みの方向性や、取組みにあたっての課題を共有する。
＜ 目指す姿 ＞
小域福祉ネットワークへの運営支援の継続
<table><tr><th>令和８～９年度目標</th><th>令和１０～１１年度目標</th><th>令和１２年度目標</th></tr><tr><td colspan="3">継　続</td></tr></table></td></tr>
</table>

基本目標２　「地域の繋がりを豊かにするための仕組みづくり」

施策の方向性（第7次市原市地域福祉活動計画をベースとした推進方策）

●全ての人が、悩みや困りごとを抱え込むことなく、身近で気軽に相談することができ、その人のニーズに合った支援につながる仕組みの整備に取り組みます。

事業（活動）内容

１　寄り添い支えていく体制の強化（地域で孤立させない取組の強化）

<table>
<tr><th>事業名</th><th>事業内容　／　到達目標</th></tr>
<tr><td>いちはら地域連携型
相談支援事業</td><td>住民が抱える潜在的ニーズの早期発見や生活課題の深刻化の軽減を図るため、地域と連携・協働し、早期の段階で「気づき」、適切な支援に「つなぎ」、その後の生活を「見守る」地区全体の相談体制の普及と推進を図る。また、必要に応じて専門機関や地域福祉関係者とケース会議を開催し、支援の検討を行う（１７ページモデル図を参照）。
＜ 目指す姿 ＞
地域の関係団体と協働した困りごとニーズキャッチ力の強化　ケース会議を通じた支援力の向上
<table><tr><th>令和８～９年度目標</th><th>令和１０～１１年度目標</th><th>令和１２年度目標</th></tr><tr><td colspan="2">周知・理解促進</td><td>充　実</td></tr></table></td></tr>
<tr><td>安心生活見守り
支援事業</td><td>社会的孤独・孤立を防ぐため、一人暮らし高齢者、障がい者世帯などを安心訪問員が定期的に訪問し、安否確認及び声掛けを行う。また、見守りが必要な世帯を掘り起こし支援に繋げる体制づくりに加え、活動を通じて把握した生活課題等へ対応するため、訪問員研修の充実や相談支援事業等との連携体制の構築を図る。専門機関に対しても情報発信等の働きかけを行い、見守りを必要とする方につなげられるよう努める。
＜ 目指す姿 ＞
地区内全ての小学校区で安心生活見守り支援事業の実施
<table><tr><th>令和８～９年度目標</th><th>令和１０～１１年度目標</th><th>令和１２年度目標</th></tr><tr><td colspan="3">全地区での実施</td></tr></table></td></tr>
</table>

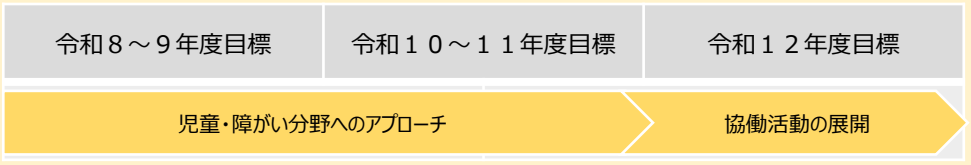
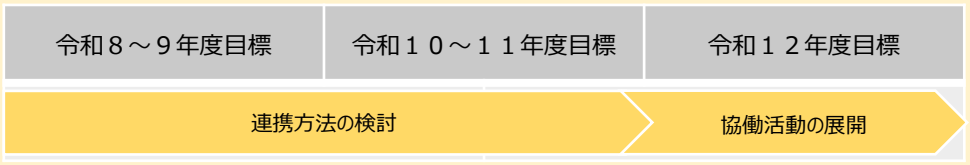
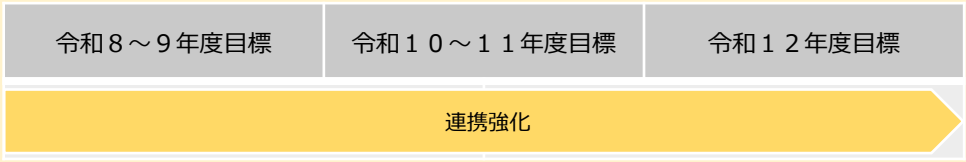
2　生活を支えるための体制強化（地域で孤立させない取組の強化）

事業名	事業内容　／　到達目標
高齢者等地域支え合い事業（第2層協議体推進）	支え合いの仕組みづくりの協議・検討を通して、高齢者支援に関わる関係団体及び専門機関等が関わる個別ケースから、第2層生活支援コーディネーターと連携し、課題や支援ニーズの把握、生活支援サービス等へのマッチング体制の強化や、サービス創出の検討、それに伴う地域の多様な活動主体との調整を行う。 ＜目指す姿＞ 第２層協議体の活性化 令和８～９年度目標 ／ 令和１０～１１年度目標 ／ 令和１２年度目標 継　続
日常生活支援事業	公的制度や民間サービスで補えない住民の日常生活上の生活課題を解決するために、住民相互による支え合い・助け合いの活動の推進を図る。事業を安定的に継続し活性化させていくため、地域の生活課題に対応できる人材を確保する。 ＜ 目指す姿 ＞ 支援者・支援メニューの充実 令和８～９年度目標 ／ 令和１０～１１年度目標 ／ 令和１２年度目標 実施・周知・理解促進 ／ 拡　充

3　地域の実情に応じた地域福祉活動の推進（地域福祉力の向上）

事業名	事業内容　／　到達目標
地区行動計画推進事業	地域共生社会づくりを着実に進めるため、定期的に開催する地区行動計画推進委員会を通じ、計画の評価・検証を行うとともに、地域の多様な主体との連携・強化を図り、取り組みの具現化に努める。 ＜目指す姿＞ 地区行動計画の取り組みの着実な推進　定期的な評価・検証 令和８～９年度目標 ／ 令和１０～１１年度目標 ／ 令和１２年度目標 評価・検証（年３回程度） ／ 計画の見直し

4　多様な主体との連携体制の強化（地域福祉力の向上）

<table>
<tr><th>事業名</th><th>事業内容　／　到達目標</th></tr>
<tr><td>社会福祉法人との
連携づくり事業</td><td>高齢者分野の法人との更なる連携強化を図るとともに、児童・障がい分野の法人との協働活動の展開に向けて、連携体制の構築を検討する。法人の持つノウハウや専門性を活用しながら、地域生活課題の解決に向けた取り組みの具現化を図る。
＜ 目指す姿 ＞
児童・障がい分野の法人との関係構築

</td></tr>
<tr><td>企業との連携づくり
事業</td><td>企業の「社会貢献活動」と住民主体による「地域福祉活動」をつなげるため、市社協と連携した地区内企業との顔の見える関係を形成していく。また、地区内企業と連携した事業の協働活動について検討する。
＜目指す姿＞
企業との連携方法の模索

</td></tr>
<tr><td>教育機関との
連携づくり事業</td><td>教育環境における多様な課題の解決や協働体制の構築に向け、地区内にある小中学校や公民館との更なる連携強化を図る。子どもたちが安心して生活できる地域づくりのため、地域全体で見守る体制を構築し、中学校区ごとに活動する学校運営協議会（コミュニティスクール）との連携を検討する。
＜目指す姿＞
地区内小中学校・公民館との連携強化　学校行事と地域活動の相互参加の促進

</td></tr>
</table>

基本目標３　「地域で安心して幸せに暮らすための基盤づくり」

施策の方向性（第7次市原市地域福祉活動計画をベースとした推進方策）

●全ての人が、地域で共に生きることの理解を深め、地域を創る存在として役割を持って活躍できるよう、地域づくり活動への参加促進など基盤の整備に取り組みます。

事業（活動）内容

1　地域で活躍する人材の育成

<table>
<tr><th>事業名</th><th>事業内容　／　到達目標</th></tr>
<tr><td>ボランティアデビュー事業（福祉教育）</td><td>幅広い世代の地域住民を対象に、福祉や地域についての理解・関心を深めるとともに、地域づくりへの参画のきっかけとなるような、福祉についての学びの機会を提供する。市社協による福祉教育出前講座を地区内小中学校で実施し、福祉教育を推進する。
＜ 目指す姿 ＞
体験講座を年1回以上開催　市社協と連携した福祉教育の展開
<table><tr><th>令和８～９年度目標</th><th>令和１０～１１年度目標</th><th>令和１２年度目標</th></tr><tr><td>手法検討・準備</td><td>アプローチ　試行実施</td><td>体験講座・啓発講座の展開</td></tr></table></td></tr>
<tr><td>地域福祉活動の担い手養成事業（啓発活動）</td><td>地域福祉活動の新たな活動者となる住民向けの講座や研修会の開催、ボランティア活動への参加を促す啓発活動を通じて、人材の確保につなげる。また、地域を支える人材がやりがいを感じて活躍し続けられるような講座や研修会の検討・実施に努める。
＜目指す姿＞
地域福祉活動に関する勉強会や研修会の検討・実施
<table><tr><th>令和８～９年度目標</th><th>令和１０～１１年度目標</th><th>令和１２年度目標</th></tr><tr><td>検討・準備</td><td>実　施</td><td>充　実</td></tr></table></td></tr>
</table>

2　災害対応力の体制構築

事業名	事業内容　／　到達目標
災害支援ボランティア事業	災害時に備え、住民を対象とした意識啓発や勉強会、訓練を実施し、災害ボランティア活動への理解促進とスキル向上に努める。また、市社協が主催する講座・訓練に積極的に参加し、住民同士の支え合いを育むとともに、自主防災組織等と連携した協力体制の強化を図る。併せて、平時から市社協の災害ボランティアセンターやサテライト災害ボランティアセンター、指定避難所、福祉避難所との連携を見据え、関係機関との協力・調整を行い、災害時における円滑な運営体制の構築を進める。 ＜目指す姿＞ 避難所運営訓練（HUG形式等）の定期実施・参加者の拡大 災害ボランティアセンター、サテライト災害ボランティアセンター、指定避難所、福祉避難所との協力体制構築

令和８～９年度目標	令和１０～１１年度目標	令和１２年度目標
理解促進	訓練の定期実施	体制構築

3　安心・安全な地域づくりの推進

事業名	事業内容　／　到達目標
体験型安全教室の推進事業	児童を対象に実践的な講座を開催し、子ども自身の危機回避能力を高めるとともに、地域・家庭での防犯意識の向上を目指す。とりわけ、近年深刻化するＳＮＳにおけるトラブルや犯罪に巻き込まれないよう、デジタルテクノロジーに関する講座を実施し、子どもたちの危機意識を高める。 ＜目指す姿＞ 防犯講座の定期的な実施

令和８～９年度目標	令和１０～１１年度目標	令和１２年度目標
継　続		

第4章　推進体制と計画事業進行管理

1　推進体制

●本行動計画は、市原市並びに市原市社会福祉協議会が策定した各計画に整合した計画です。このため、常に上位計画である各計画の推進動向には配慮していくことを基本とします。

●このことを念頭に置き、地区住民はもとより、関係組織・団体・ボランティア・企業等々、国分寺台地区に関わりのある全ての協力者と相互に連携を図り、協働しながら計画事業を推進していきます。

●特に小域福祉ネットワークは、小学校区の範囲内にいる住民、そこで経済活動をしている企業、目的を持って活動している組織・団体等、全てを地域という視点で横断的に捉えて活動することを基本としていることから、計画推進については、中核的組織として位置付けていきます。

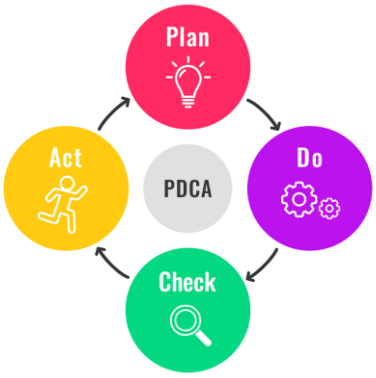
●本行動計画は、策定主体が国分寺台地区社会福祉協議会であることから、本地区社会福祉協議会が構成する理事会並びに評議員会に諮りつつ、一眼となった協力体制のもとに事業推進に取り組みます。

2　計画事業の進行管理

●本行動計画の進行管理は、上位計画との整合性に配慮しながら、ＰＤＣＡサイクルに沿って行います。

●本行動計画では、中間年度（３年目）と最終年度（５年目）に、第７次市原市地域福祉活動計画と連動性を高めるために一体的な検証・評価を行います。

●加えて、単年度ごとに地区独自で事業の業績と成果を検証し、常に効果のある事業推進を図ります。



«Plan（計画）　⇒　Do（実行）　⇒　Check（点検・評価）　⇒　Act（改善・見直し）»

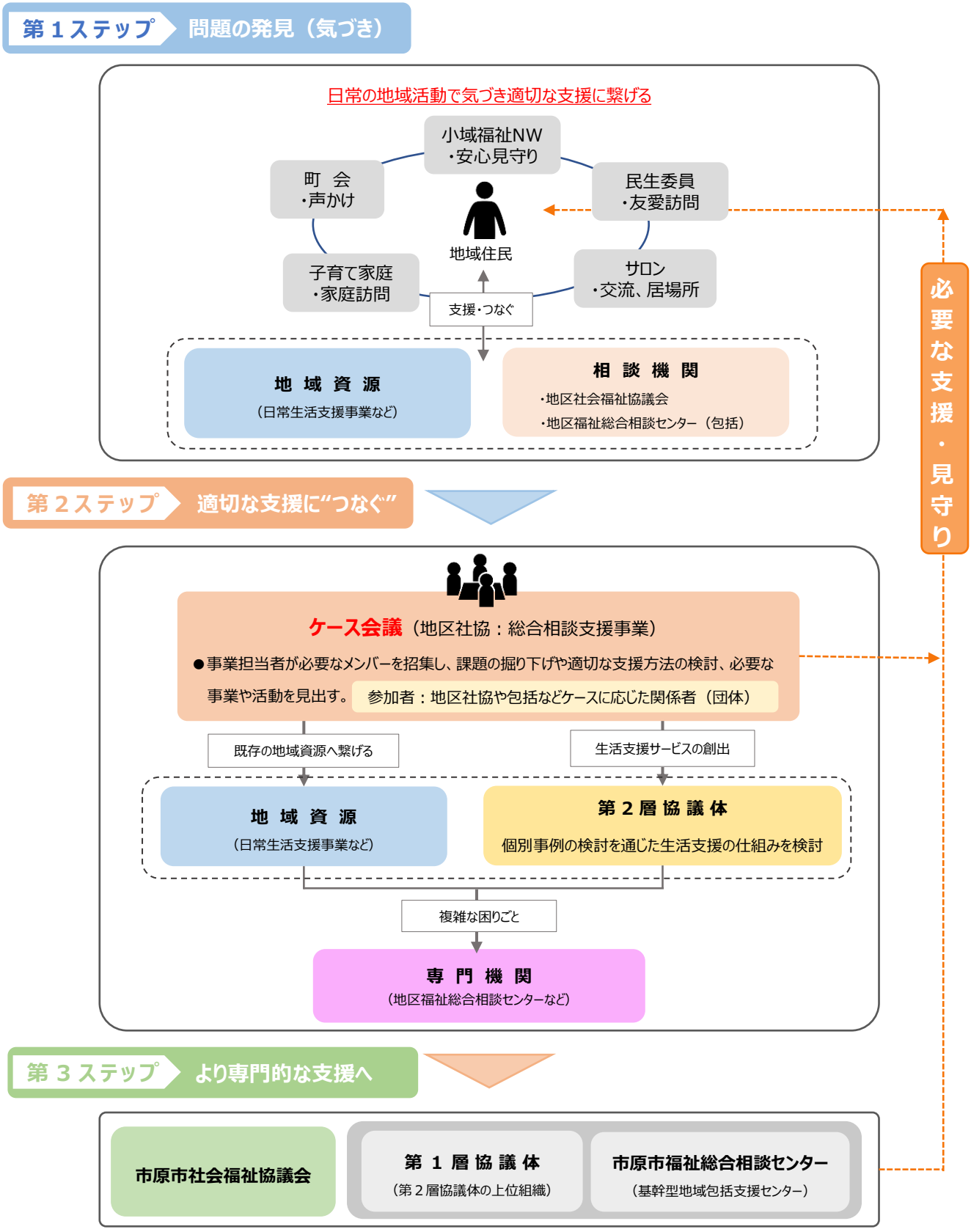
第5章 資料編

1 策定委員名簿

No.	所属団体	委員名
1	国分寺台地区町会長会	◎松村　貞
2	国分寺台地区民生委員児童委員協議会	●中村　哲弥
3	国分寺台地区社会福祉協議会	船山　慶子
4	国分寺台地区社会福祉協議会	藤岡　順子
5	国分寺台地区町会長連合会	尾川　斉
6	国分寺台地区町会長連合会	田邉　誠一
7	国分寺台地区町会長連合会	二本木　功
8	国分寺台地区町会長連合会 国分寺台東小学校区小域福祉ネットワーク	田中　正実
9	国分寺台地区民生委員児童委員協議会	柳池　繁
10	国分寺台地区民生委員児童委員協議会	西村　和男
11	国分寺台西小学校区小域福祉ネットワーク	河端　幸子
12	国分寺台小学校区小域福祉ネットワーク	山下　國雄
13	子育て家庭支援員連絡協議会　国分寺台支部	吉田　陽子
14	子育て家庭支援員連絡協議会　国分寺台支部	中島　邦子
15	NPO法人　みち	岩見　初恵
16	市原市老人クラブ連合会　国分寺台支部	鵜目　達也
17	市原市老人クラブ連合会　国分寺台支部	那須田　進
18	地域包括支援センター　こくぶんじ台	宮﨑　倫子
19	医療法人社団ゆうあい会	安彦　輝良
20	社会福祉法人清風会　ぬくもりの家惣社	南條　広樹
21	社会福祉法人　市原市社会福祉協議会 第２層生活支援コーディネーター（国分寺台地区）	赤嶺　優

◎：代表　●：副代表

2 相談支援体制（モデル図）



3 活動写真

● 地域食堂「コンパス」
子どもの居場所づくり「トリノす」



● 共生型サロン事業（バリアフリー交流会）



● お互いさまの地域づくり事業（フードパントリー）



● お互いさまの地域づくり事業（制服リユース）



● 地域福祉支援事業（歳末クリスマスコンサート）



● 福祉避難所開設運営訓練



メモ欄



第３次支え合いのまちづくり計画

令和８年度（２０２６年）～令和１２年度（２０３０年）

【発　行】令和８年（２０２６年）７月

【事務局】国分寺台地区社会福祉協議会

〒290-0075　市原市南国分寺台4-1-4

TEL：070-5589-0658

Mail：ichiharavc2@bd.wakwak.com